

# 仁丹

報道関係各位

2009年11月6日

森下仁丹創業 116 年を記念した新「仁丹」

ジ タ ン イチイチロク

## 「JINTAN116」

—2009年11月6日(金)から発売!—

森下仁丹株式会社(本社:大阪市中央区、代表取締役社長:駒村純一)は、創業(1893年)116周年を記念して「JINTAN116(ジタン イチイチロク) (価格:300円(税込))」を2009年11月6日(金)より、発売します。

銀粒の「仁丹」は、発売以来日本だけでなく世界で支持されるロングセラーで、16種類の生薬の力で息や気持ちを爽やかにする商品として愛されてきました。この「仁丹」が創業116年目の11月6日(金)に、銀のペールを脱ぎ、カプセルタイプの新仁丹「JINTAN116」として新しく誕生します。

「JINTAN116」は、7種類の生薬を配合したリキッドを、銀粒の「仁丹」以来、弊社が培ってきた独自の技術であるシームレスマイクロカプセル(直径3.5ミリ)に閉じ込めました。口の中でプチッとほじけ、気になる息を瞬時にリフレッシュする口中清涼剤です。味はほんのり甘苦く、後味すっきりの「<コクにが>」に仕上げました。一般の携帯タブレットとは一線を画す、「気分不快」や「口臭」も改善する「医薬部外品」です。ターゲットはお酒を飲む機会も多く、ストレスを抱えがちな40代ビジネスマンで、パッケージもスタイリッシュに、アラフォー世代の「健康な息づくり」を応援します。

※引き続き、銀粒の仁丹も併売します。

### 【商品特徴】

#### ①新食感のマイクロカプセルを採用

銀粒仁丹は、生薬の丸剤を銀でコーティングしていましたが、「JINTAN116」では、液体を包むために開発された森下仁丹独自の「シームレス(継ぎ目のない)カプセル」を採用しています。

#### ②7種類の生薬配合

メントール、ケイヒ、チョウジ、ウイキョウ、アセンヤク、カンゾウ、ペパーミントを配合しています。シームレスカプセルで包むことで、生薬独特の匂いを軽減しています。味はほんのり甘苦く、後味すっきりの「<コクにが>」です。

#### ③直径3.5ミリの極小カプセル

「JINTAN116」は、直径3.5ミリの極小カプセルです。1回3粒、口に含んで嚙めば、瞬時に息をリフレッシュします。

「JINTAN116」



【製品概要】

商品名	JINTAN116
価格	300円(税込み)
内容量	1袋(100粒入り)
発売日	2009年11月6日(金)

### 【本件に関するお問い合わせは】

森下仁丹株式会社 広告・宣伝グループ 磯部・大北 TEL:06-6761-1134 FAX:06-6761-8108  
共同PR株式会社 担当:長尾・林 TEL:03-3571-5275 FAX:03-3574-0316



【製品内容】

商 品 名	JINTAN116
分 類	医薬部外品
容 量	100 粒
商 品 サ イ ズ	高さ 100mm 横 63mm 奥行 13mm
J A N コ ー ド	4987227027934
包 装 仕 様	紙ケース アルミ製外袋
効 果 ・ 効 能	二日酔い、口臭、悪心、嘔吐、気分不快、乗物酔い、胸つかえ
有 効 成 分	メントール、丁字油、ペパーミント油
そ の 他 成 分	ショ糖脂肪酸エステル、ウイキョウ油、桂皮油、マクロゴール 400、サッカリンナトリウム、阿仙薬末、香料、ゼラチン、D-ソルビトール、甘草粗エキス末、カラメル
用 法 ・ 容 量	大人 1 回 3 粒、11 歳以上 15 歳未満 1 回 2 粒、8 歳以上 11 歳未満 1 回 1 粒、1 回量を口の中で溶かして、1 日 10 回まで適宜服用する。

## 【参考資料】 森下仁丹の歴史と、銀粒の「仁丹」

1893年(明治26年)2月11日、森下仁丹は、薬種商「森下南陽堂」として、大阪市東区淡路町(現・中央区)に、その産声をあげました。創業者の森下博は、当時弱冠25歳でした。

### 《仁丹の歴史》

創業から10年あまりたった、1905年の2月11日、「仁丹」が発売されます。その開発には、日露戦争のさなか台湾に出征した際、森下が見た、現地の人々が朝な夕なに口にしている生薬の粒にヒントがありました。「聞けば、生薬が配合され、万病に効果があり、飲みやすく、しかも携帯にも保存にも便利という。日本にもあんな薬があれば、病気で亡くなる多くの人たちを救えるかもしれない」との思いから、総合保健薬としての「仁丹」が生まれたのです。中国では文字の王様とされる「仁」と、不老不死の薬という意味もある「丹」を組み合わせた「仁丹」。「アイデアをもらった中国に、せめて名前だけでも恩返しをしよう」という森下によって名付けられました。



仁丹創売当時の一粒出しケース  
(明治38年)



東京・浅草大広告塔  
1932年(昭和7年)建設

### 《仁丹と広告》

森下仁丹が創業以来力を入れてきたのが、新聞の全面広告のほか、全国の薬店の突き出し屋根看板や京都市内に今も残る町名看板、民放開局とともに実施したラジオ広告、テレビ広告などの広告・宣伝活動です。「広告による薫化益世を使命とする」という森下の考えのもと、他社に先がけ、さまざまな販促活動を実施してきました。三木トリロー作詞作曲、ダークダックスが歌うCMソング「仁丹の歌」は大人から子供にまで親しまれ、1931年(昭和6年)に建設された浅草の大広告塔に続き、1963年(昭和38年)には、東京、渋谷の宮益坂上に、17階建ての光る広告塔ビルを建設しました。塔の上部が1時間ごとに色を変えて、待ち行く人々に時間を知らせていたことから、渋谷のシンボルとして長く愛されました。



戦後初の新聞広告  
(昭和25年1月1日)

### 《仁丹とは…》

「仁丹」は、甘草(カンゾウ)、甘草粗エキス末、阿仙薬(アセンヤク)、桂皮(ケイヒ)、ニツケイ(和桂皮(ワケイヒ))、茴香(ウイキョウ)、生姜(ショウキョウ)、丁字(チョウジ)、縮砂(シュクシャ)、益智(ヤクチ)、木香(モッコウ)、メントール(薄荷脳(ハッカノウ))、桂皮油、丁字油、甘茶(アマチャ)、ボルネオール(竜脳(リュウノウ))、以上16種類の生薬を配合しています。医薬部外品で、気分不快、口臭、二日酔い、胸つかえ、悪心嘔吐、溜飲、めまい、暑気あたり、乗物酔いに効果があります。

仁丹は、創売100年以上たった今もなお、ドラッグストアの店頭に並ぶ大ロングセラー商品です。